

磐梯山の動植物

R. E

僕が裏磐梯へ行って知りたかったのは、高山植物です。僕は高山植物を含め、磐梯山の動物、湖沼など色々な分野を調べてきました。この中でとくに興味深かったのが植物です。人間などに害をもたらす植物や、食べることのできる植物、薬として使える植物などさまざまです。

もうひとつ知りたかったのは虫や動物の分野です。僕が調べた資料の中にはアサギマダラという渡りをする蝶がいました。このアサギマダラのなかには、直線距離で1500キロメートル以上移動した個体や、1日あたり200キロメートル以上の速さで移動した個体もいるらしいです。他にも興味深い生き物がたくさんいます。

実際に自然体験学習をして、おもしろい資料を入手出来たり見られたりしました。1日目の自然体験で僕は「バードウォッチング」でした。バードウォッチングでは、トリを観察するのが目的でしたが、少し風が強く、あまり鳥は見る事が出来ませんでした。しかし、2～3羽は見る事ができました。トリはあまり見る事が出来ませんでした。トリを見るコースには、僕が見てみたかった動物や植物がたくさんありました。中には山でたまに見かけるといふヤマナメクジもいました。ヤマナメクジは大きいので20～30センチメートルもあります。



左の写真の木の上の方にいるのがヤマナメクジ。この状態は縮んでいるときで、のびると倍近くになる。

さらに、展望台の近くにトビらしき鳥が2～3羽飛んでいました。とても遠くにいたので写真を撮ることは出来ませんでした。2～3羽一気に見ることができたのでうれし

かったです。あと、鳥が食べた実を糞として出し、それが木の枝に乗かってしまい、そこから芽が出て育ってしまう植物も見られました。本当にたくさんの動植物を見られたのでうれしかったです。

バードウォッチングの後の草野秀雄先生の話もためになりました。内容は、鳥の口ばしの長さや大きさはなぜ違うのか、あと渡り鳥の話をして下さいました。鳥の口ばしの話は、鳥は食べ物によって口ばしが全く違うということを知りました、カラスは肉や木の実など何でも食べる雑食なので、口ばしは長くて大きいです。魚を丸のみしてしまう鳥は、丸のみできる程度の大きさが必要ということで、口ばしが大きいです。ウサギなどの肉を食べるワシなどは、肉を引きちぎるために口ばしが短く鋭くなっています。他にも花の蜜を吸う鳥がいて、その鳥の口ばしはとても細長く、鋭くなっています。

渡り鳥の話では、渡りをする鳥には何種類かあるということを知りました。まず、渡り鳥には二種類あり、夏鳥と冬鳥というのがいます。夏鳥は南半球からえさを捕獲するためと、繁殖のためにくる鳥です。冬鳥は、えさが雪などによりなくなってしまったため、えさを求めてくる鳥です。ちなみに、渡りをしない鳥を、留鳥と言います。もうひとつは、漂鳥と言います。漂鳥とは、国内の高いところと、低い所を行き来する鳥のことです。

他に下さった話は磐梯山にいる生物の食物連鎖のことについてです。いちばん下には微生物的なものがあり、その上に微生物を食べる虫や魚みたいなものがあります。そのうえに虫や魚をえさとする蛇などの肉食動物がいて、いちばん上にはワシなどの肉食動物がいます。しかしそのワシなどが死んで土に戻ります。それが微生物などに食べられて、またその・・・、というように無限ループになります。この繰り返しが磐梯の生物を増やしていきました。

右の木の写真はブナの木です。雄国山ではとても有名な木で、この木の写真を撮るために来る人もいます。

最後に草野先生への質問の時間があってなんでも質問してよいと言われたので、僕はツキノワグマの特徴のことをお聞きしました。ツキノワグマは、冬眠後に水芭蕉を食べて老廃物等を排出するのは事前の調べで分かっていましたが、新しい特徴も知ることができました。それは、冬眠後ではなく、冬眠する前にツ



ブナの木

キノワグマは松ヤニを食べて、逆に老廃物を出さないようにするという事です。この話でツキノワグマの本能が分かりました。水芭蕉のように害をなす植物だけでなく、逆に薬として使われたり、お化粧品代わりにする植物等も分かりました。

薬として使われる植物はたくさんあります。効果は虫刺され・傷・利尿の薬や、植物油や入浴剤としても使われることがあります。実際にバードウォッチングのコースを歩いているときに、シップの匂いがする植物がありました。

2日目の自然観察の「磐梯山頂を目指せ」では、あまり天気が良くなく、雄国山という山を登りました。しかしこの山にも興味深い植物などがありました。僕は高山植物を見て調べるつもりでしたが、写真を撮ってはいけないのもあったため、残念ながら写真は取れないもありました。しかし、樹齢百年ごえの木や、道端の植物を教えてくださいました。

僕が山へ行って調べたいと思っていたことは、山の高さによって植物の種類は変わっていくのかということです。山は高さによって土の色など色々なことが変化していくので、植物ではどうなるのかなと思っていたからです。実際に登ってみて調べたところ、植物の種類はちゃんと変わっていきました。多分土の成分や気温などが関係してきているのだと思います。途中で山を登るので精いっぱいになってしまい、あまりよく調べることはできませんでした。でも山を登りきったあの達成感と感動はすごいものでした。本当によかったです。山に登っている途中に、ツキノワグマが木を引っかいた跡がありました。



色々な方向に傷ははいっている。実際にしてみると、この傷は結構深く削れていた。

下の写真は手で叩くと音が鳴るという植物です。



その他に、植物を使った遊びなどを教えてくださいました。一つめは、どんぐりの笛です。笛といっても口をあてて吹くだけですが、意外ときれいに音を鳴らすのが難しく、たいへんでした。

二つ目は、葉っぱを手の上に乗けて、もう片方の手で叩くと「パン！」と音が鳴る遊びです。先生は植物の生態だけでなく、こういう遊べるようなことも知っているのは、さすがだなと思いました。

磐梯山の台地・福島県の人々を含めた自然体験学習全体から僕が学んだことは協力するということです。今回の林間学校では協力しないとできないことばかりでした。そしてこの3日間が終わったことで、それをより実感できました。福島で働く方々のおかげで今回の林間学校にいったようなものなので、福島の方々にはとても感謝しています。

林間学校に行っていていろいろなことを学びましたが、どれも大切なことでした。これらの経験を活かして、これからの行事などを頑張っていきたいです。